

第 1 章

家族とのかかわり

真田美恵子（1節・2節）

後藤 憲子（2節）



第1節

子どもと過ごす時間、
子どもとの関係

平日に子どもと過ごす時間の理想は、7割以上の父親が「2時間以上」と答えるが、実際に過ごす時間は「2時間未満」が6割以上を占める。一方、休日は半数あまりが10時間以上子どもと過ごしており、理想とほぼ一致している。また、子どもとの関係は良好ととらえる父親が多い。

まず、父親と子どもの関係からみていくことにする。平日・休日それぞれに、父親はどの程度の時間を子どもと一緒に過ごしているのだろうか。また、父親自身が理想とする時間との間に差はあるのだろうか。

●平日に子どもと過ごす時間

図1-1-1～2は、子どもと一緒に過ごす時間と理想とする時間（平日・休日）を聞いたものである。まず、平日からみていこう（図1-1-1）。平日に子どもと過ごす時間は、「1～2時間未満」が最も多く27.0%であった。この「1～2時間未満」をピークに、分布はなだらかな山を描く。「1時間未満」の比率は36.7%、「2時間以上」は36.3%である。一方、理想とする時間は「2～3時間未満」が最も多く32.5%だった。もっと子どもと一緒に過ごしたいと希望しながらも過ごせない父親の実態がうかがえる。

●休日に子どもと過ごす時間

では、休日はどうだろう。実際に過ごす時間は、「10時間～ほぼ1日」が最も多く50.3%だった（図1-1-2）。平日に十分な時間を過ごせない分、約半数の父親は休日は子どもが起きている間ずっと一緒に過ごしているようだ。理想とする時間も「10時間～ほぼ1日」

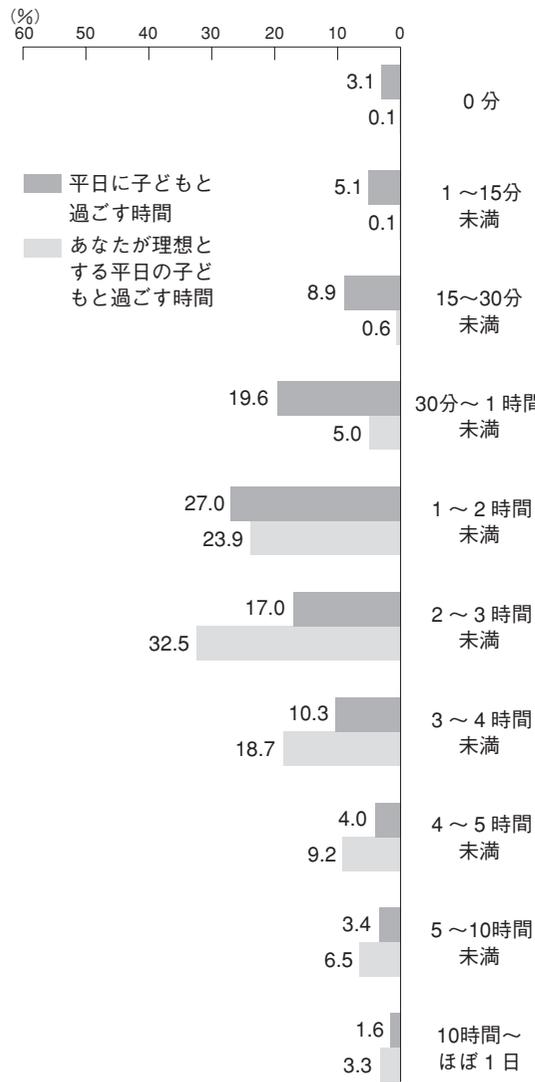
が54.0%を占めていて、実際に過ごす時間と理想の時間との間に大きな開きはなかった（この質問は「あなたは、お子さんとどのくらい一緒に過ごしていらっしゃるでしょうか」という聞き方をしているため、実際にどのような過ごし方をしているのかはわからない。同じ時間・空間を共有しているだけで、子どもの世話をしたり親子の密なコミュニケーションをとったりする時間はもっと少ないことも考えられる）。

●平日に子どもと過ごす時間の
「現実」と「理想」のずれ

次に、平日について、理想とする時間と実際に過ごす時間がどういう場合でずれるのかをみていきたい。実際に過ごす時間は、30分～4時間未満が全体の73.9%を占めるので、その時間帯を抜き出して、理想とする時間との関係をみたのが表1-1-1である。これをみると、現実と理想が一致している人の割合は、「2～3時間未満」で41.4%、「3～4時間未満」で49.7%と約半数となる。逆に「2時間未満」だと、理想と現実乖離がみられる。理想どおりと感じている父親は少ない。

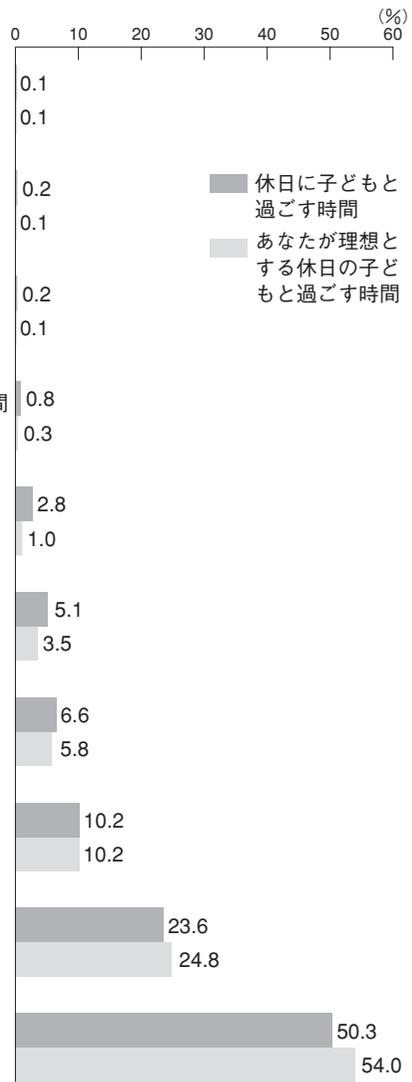
では「2時間以上」過ごしているのはどのような人なのだろうか。

■図 1-1-1 平日に子どもと過ごす時間の「現実」と「理想」



注) 寝ている時間は除く。(サンプル数 2958人)

■図 1-1-2 休日に子どもと過ごす時間の「現実」と「理想」



注) 寝ている時間は除く。(サンプル数 2958人)

■表 1-1-1 平日に子どもと過ごす時間と理想とする時間の関係

		平日の理想の時間との関係 (%)	
		実際＝理想	実際<理想
平日の 実際の時間	30分～1時間未満 (581人)	7.4	92.4
	1～2時間未満 (798人)	22.4	77.3
	2～3時間未満 (502人)	41.4	56.8
	3～4時間未満 (306人)	49.7	46.8

(サンプル数 2187人)

● 平日の帰宅時刻と子どもと過ごす時間

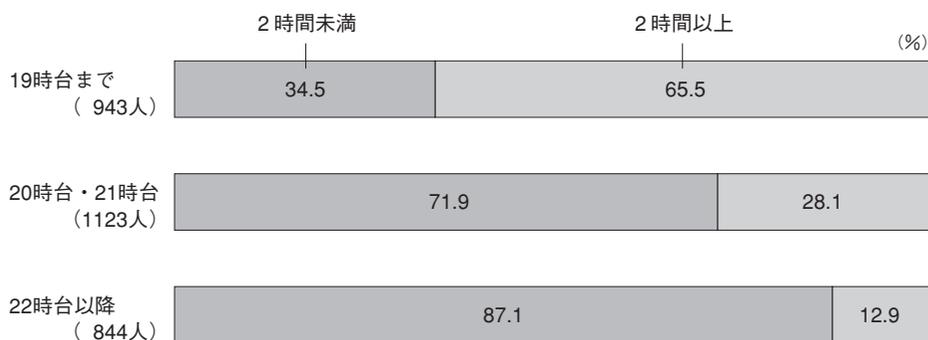
平日の平均帰宅時刻と、平日に子どもと過ごす時間（「2時間未満」「2時間以上」に分類）の関係をみたのが、図1-1-3だ。早く帰宅するほど、子どもと「2時間以上」過ごす比率が高まるのは納得できる結果だが、「19時台まで」と「20時台以降」で大きな差があることがわかった。「19時台まで」に帰宅する父親の65.5%が子どもと「2時間以上」過ごすのに対し、「20時台・21時台」の帰宅だと28.1%、「22時台以降」になると12.9%とさらに低くなる。乳幼児の平日の就寝時刻は、「第3回幼児の生活アンケート・国内調査」（Benesse教育研究開発センター 2005年実施）によると、最も多いのが「21時頃」で29.1%であった。「19時台まで」に帰宅できれば、子どもの就寝までに触れ合う時間が確保できるということかもしれない。なお、「19時台まで」に帰宅している父親は対象者（職業が「無職」「その他」を除く2,910人）の32.4%であった。

● 子どもとの関係

続いて、父親からみた「子どもとの関係」をみていこう。図1-1-4は、「自分は子どもに必要とされている」「子どもを喜ばすことが生きがいだ」「自分は子どもの相手をよくしている」など、子どもとの関係について聞いた質問の結果である。総じて肯定的な意見が多くみられた。「自分は子どもに必要とされている」は「とてもそう思う」が43.5%、「子どもを喜ばすことが生きがいだ」は「とてもそう思う」が23.8%、「まあそう思う」を加えると78.5%となる。先ほど触れたように、休日は半数あまりの父親が10時間以上、子どもと一緒に過ごすことを考えると、この結果もうなずける。

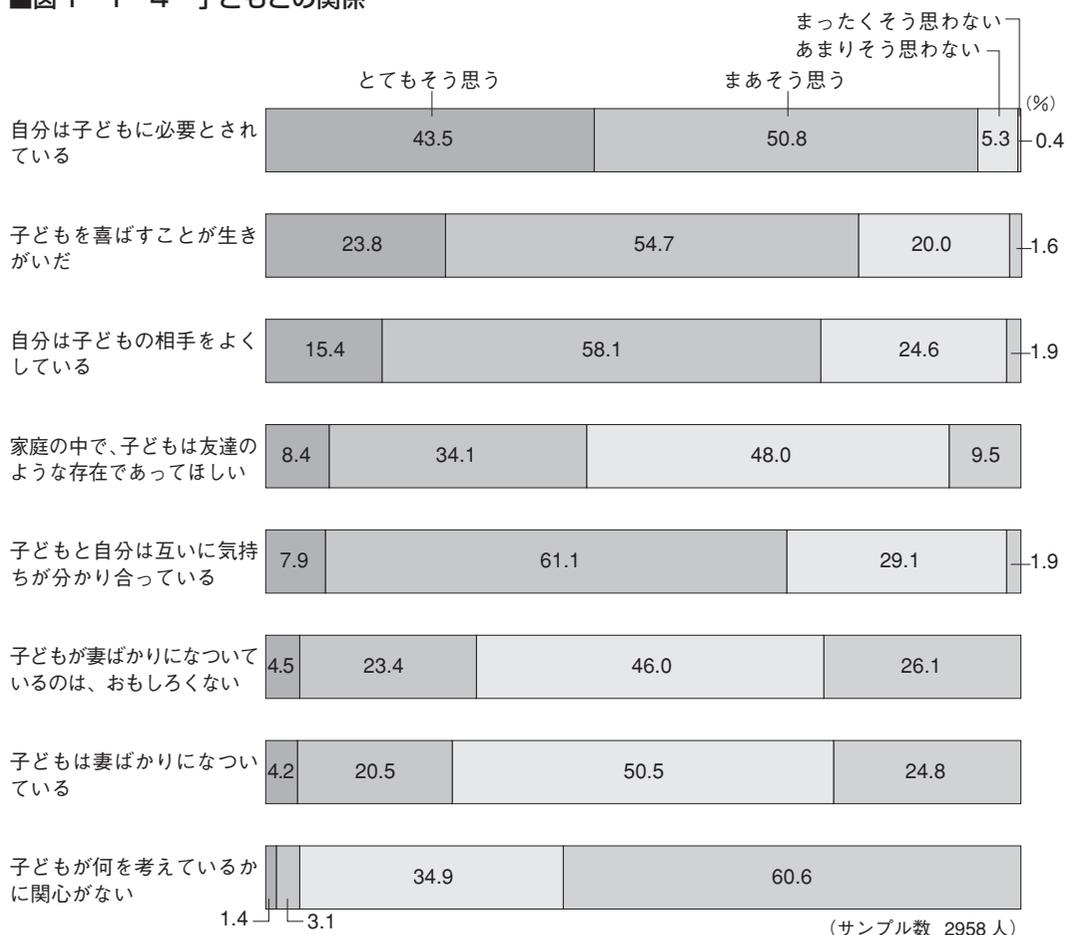
また図1-1-5で示しているように、父親の年代が若いほど「子どもを喜ばすことが生きがいだ」に「とてもそう思う」と答える割合が高い。20代で29.5%に対して、30代で24.4%、40代では19.3%と低くなる。

■ 図1-1-3 平日に子どもと過ごす時間（帰宅時刻別）



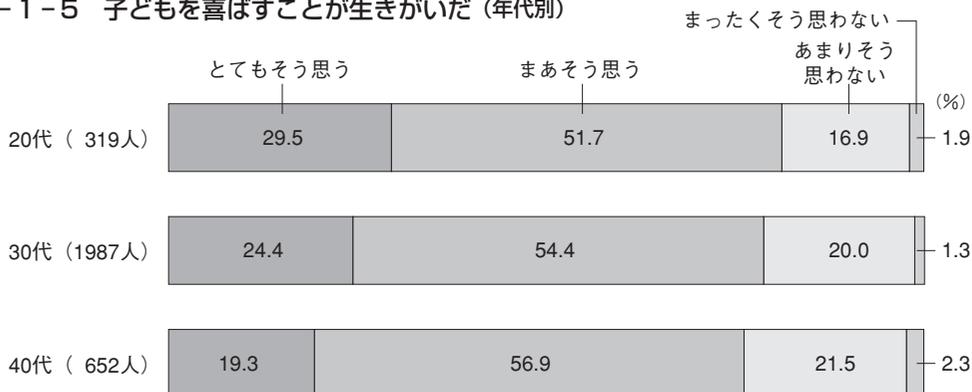
注) 父親の職業が「無職」「その他」を除く。

■図1-1-4 子どもとの関係



注)「子どもが妻ばかりになつているのは、おもしろくない」は、子どもが妻ばかりになつていない場合は想定して回答。

■図1-1-5 子どもを喜ばすことが生きがいだ (年代別)



第2節

家事・育児の実態と理想

父親は家事よりも育児に参加する比率が高い。妻子以外の同居親族がいるほうが父親の家事参加は少なく、育児参加は多い傾向がみられる。家事・育児に積極的に参加する父親ほど、家事や育児に「もっとかかわりたい」と考え、夫婦の絆が強い。

この節では、父親の家事・育児への参加の程度について、父親自身の理想と実態をみていきたい。

●父親がよくする家事・育児

家事・育児に関する11項目について参加の程度を聞いたものが、図1-2-1である。「ほとんど毎日する」の数値が高い順から、「ごみを出す」(40.4%)、「子どもを叱ったり、ほめたりする」(34.4%)、「子どもをお風呂に入れる」(20.8%)となっている。一方、下位は順に「掃除をする」(1.4%)、「子どもと一緒に外で遊ぶ」(1.6%)、「食事のしたくをする」(3.2%)であった。全体的に、家事よりも育児に積極的なようである。このような家事・育児への参加程度の背景には、どのようなことがあるのだろうか。

●父親の家事・育児参加と同居親族の有無

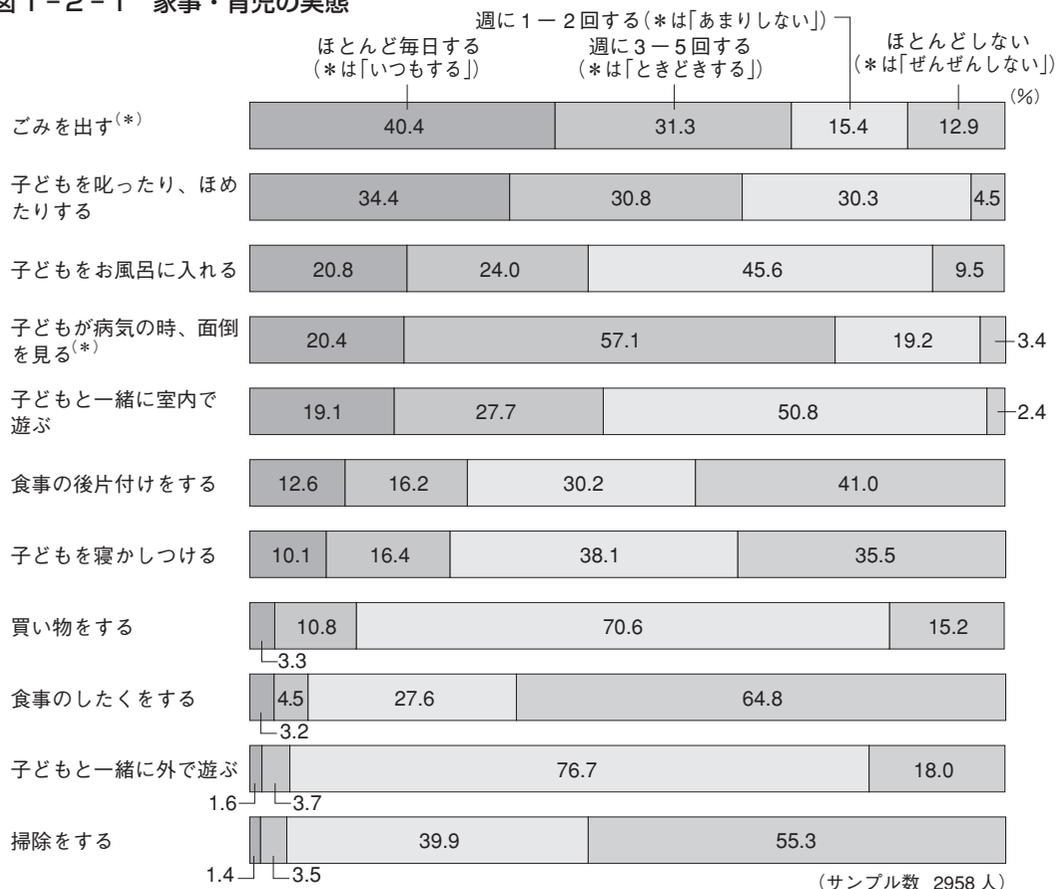
家事・育児への参加の程度をわかりやすく示すために、最初に、家事・育児への参加の程度を得点化した(図1-2-2以降で示している「家事得点」「育児得点」)。家事に関する5項目、育児に関する6項目について、

「ほとんど毎日する」(「いつもする」)を4点とし、「週に3-5回する」(「ときどきする」)を3点、「週に1-2回する」(「あまりしない」)を2点、「ほとんどしない」(「ぜんぜんしない」)を1点として得点を合計した。これにより、得点が高いほど家事・育児への関与が大きいことを表す尺度ができる。そのうえで、各群がおよそ3分の1ずつになるように、得点の「低群」「中群」「高群」を設定した。

そうして家事・育児と同居する親族の有無との関係をみたのが図1-2-2~3である。同居親族がいると、父親の家事参加が少なくなる傾向がみられた。同居親族「あり群」は、妻・子ども以外に「自分の父・母」「配偶者の父・母」「自分の父母以外の親族」「配偶者の父母以外の親族」と同居しているケースをさす。同居親族「あり群」のほうが、父親の家事参加は少なく、「なし群」よりも家事得点「低群」が15.6ポイント多い。同居親族が家事の役割を担ってくれるため、父親の参加が少なくなるのだろう。

逆に、同居親族がいると父親の育児参加は増える傾向がみられた(図1-2-3)。同居親族がいる父親の育児得点「高群」の割合は36.4%であるのに対し、いない場合は30.5%と約6ポイント少ない。家事は任せて、育児にかかわる父親像が浮かび上がる。

■図 1-2-1 家事・育児の実態



■図 1-2-2 家事得点 (同居親族有無別)



■図 1-2-3 育児得点 (同居親族有無別)



*図 1-2-2～3の「家事得点」「育児得点」は、図 1-2-1の家事に関する5項目、育児に関する6項目を得点化し、各群がおよそ3分の1ずつになるように設定した。

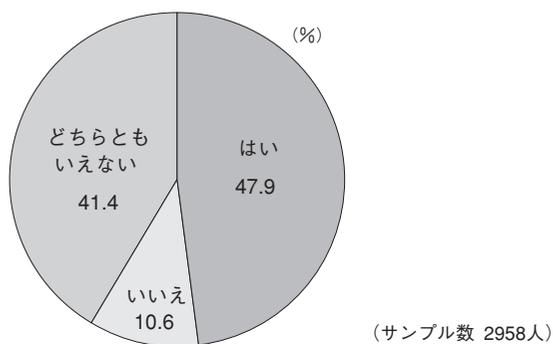
●家事・育児への今後のかかわり

次に、家事・育児への今後のかかわりについて聞いたのが図1-2-4である。「あなたは、家事や育児に、今以上にかかわりたいと思いますか」という質問に、約半数（47.9%）が「はい」と答え、「どちらともいえない」は41.4%、「いいえ」は10.6%であった。さらに家事・育児にかかわっている人ほど、今以上にかかわりたいと思っていることもわかった（図1-2-5～6）。「低群」よりも「高群」のほうが「今以上にかかわりたい」と答える割合が高くなっていた。家事・育児に実際にかかわっている父親のほうがより意欲的ということなのだろうか。

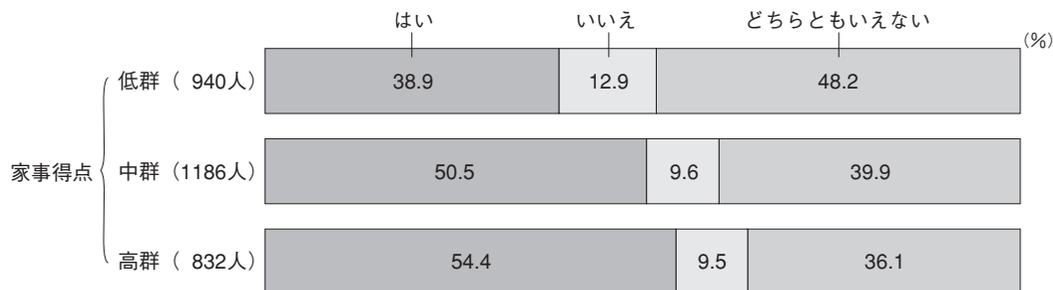
また、「家事や育児に、今以上にかかわりたいと思いますか」という質問に対して「はい」と答えた47.9%の父親を対象に、「もっ

とかかわりたいと思っているもの」を3つまで選択してもらったところ（図1-2-7）、「子どもと一緒に外で遊ぶ」（78.8%）、「子どもと一緒に室内で遊ぶ」（44.9%）、「子どもを叱ったり、ほめたりする」（36.5%）の順となり、育児にかかわりたいという希望が上位を占めていた。最も回答が多かった「子どもと一緒に外で遊ぶ」は、実態を聞いた質問（図1-2-1）では先に触れたように、父親の参加が極めて低かった項目である（「ほとんど毎日する」1.6%）。ただし「週に1～2回する」（76.7%）が大半を占めており、土日には近所の公園などで子どもと遊ぶ父親は多いのだろう。屋外での身体を使ったダイナミックな遊びは父親の得意とするかかわりでもあるだけに、現実と理想のギャップの大きさが気になる。

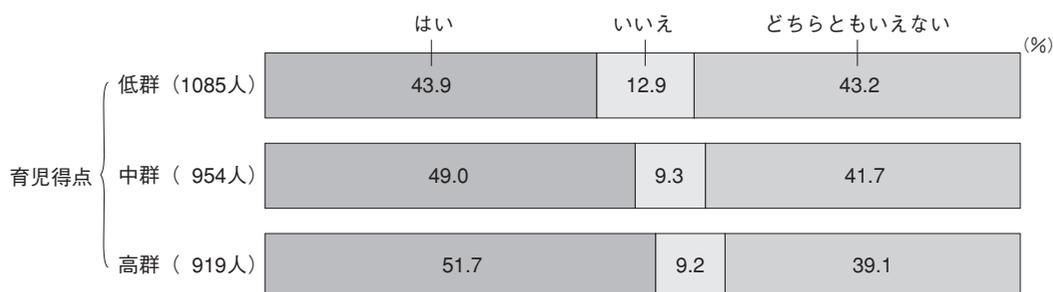
■図1-2-4 家事や育児に今以上にかかわりたいか



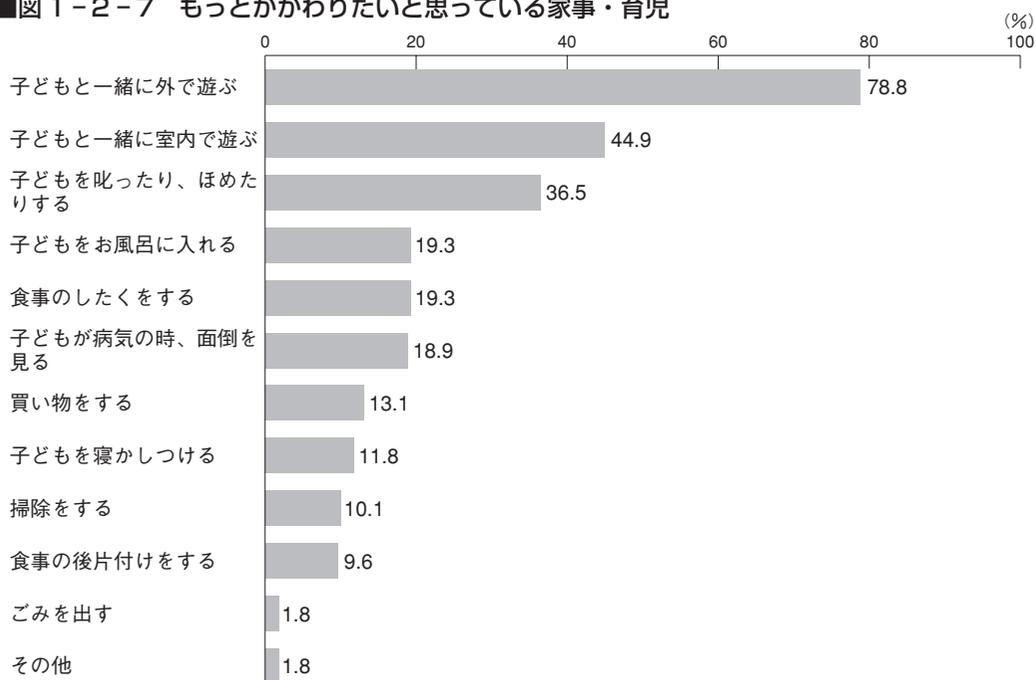
■図 1-2-5 家事や育児に今以上にかかわりたいか（家事得点別）



■図 1-2-6 家事や育児に今以上にかかわりたいか（育児得点別）



■図 1-2-7 もっとかかわりたいと思っている家事・育児



注) 複数回答 (3つまで)。

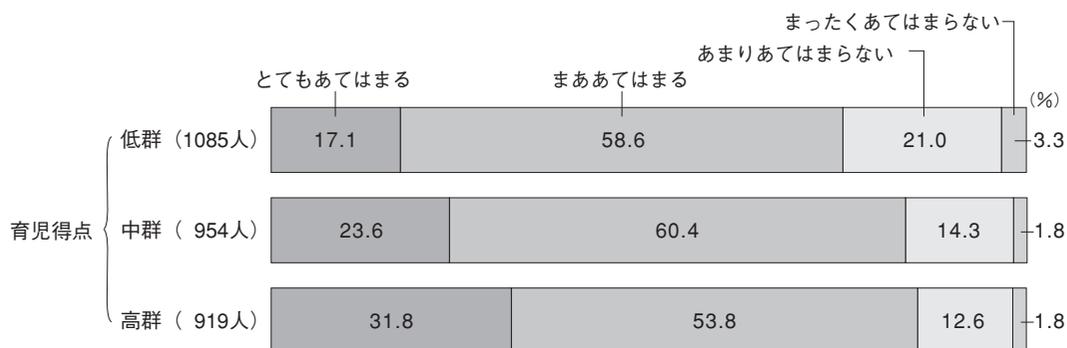
(サンプル数 1418人)

●家事・育児への参加と妻との関係

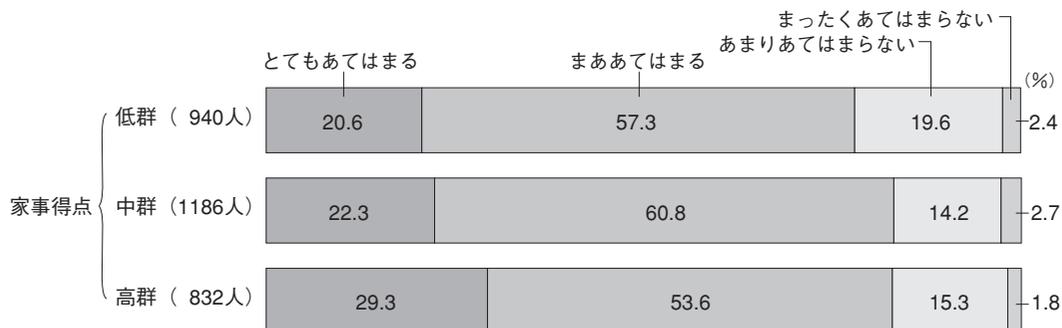
では、家事・育児への参加の程度と妻との関係はどうなっているのだろう。図1-2-8のように、育児へのかかわりが多くなるほど「妻と自分は、互いに心の支えになっている」に「とてもあてはまる」と回答する割合が高くなっていった。「低群」では「とてもあてはまる」が17.1%なのに対して、「中群」は23.6

％、「高群」では31.8%にまで数値が上がる。育児への関与が大きいから「妻と自分は、互いに心の支えになっている」と思うのか、その逆なのか。家事についても同様の傾向がみられたが、育児ほど相関は強くなかった（図1-2-9）。いずれにしても、父親の家事・育児への参加と夫婦の絆には強い関係があるようだ。

■図1-2-8 妻と自分は、互いに心の支えになっているか（育児得点別）



■図1-2-9 妻と自分は、互いに心の支えになっているか（家事得点別）



● 夫と妻の家事・育児の分担

家事・育児の分担については、次の4つの項目から選択してもらい、夫のタイプ分けを試みた。質問項目が長いので、それぞれをわかりやすく以下のように名前をつけた。

1. 夫は仕事中心、妻は家事・育児中心と割り切って分担している→仕事専念タイプ
2. 本当はもっと子育てにかかわりたいが、時間的な余裕がなく、妻に任せている→時間がなく、妻任せタイプ
3. 夫と妻で役割を決め、できるだけ家事や育児を分担している→夫婦共同分担タイプ
4. 夫が主に家事・育児を担当し、妻が仕事をしている→家事・育児専念タイプ

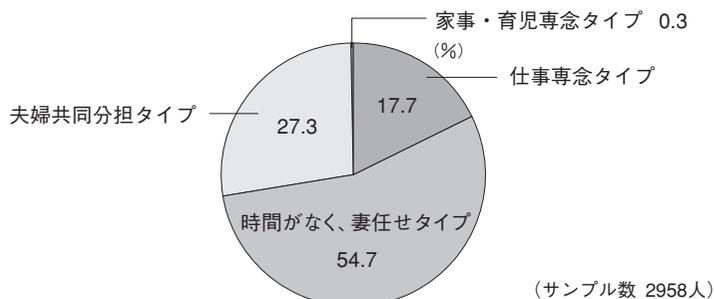
なお、「家事・育児専念タイプ」はサンプル数が非常に少ない（8人）ので、分析は控えた。

● 全体の54.7%が「時間がなく、妻任せタイプ」

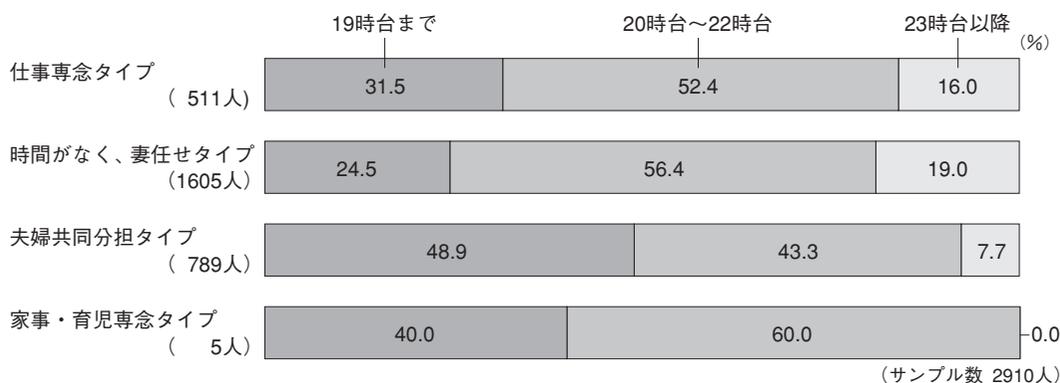
4つのタイプの割合をみると、「時間がなく、妻任せタイプ」が54.7%、「夫婦共同分担タイプ」27.3%、「仕事専念タイプ」17.7%、「家事・育児専念タイプ」0.3%だった（図1-2-10）。まず、全体の半数以上を占める「時間がなく、妻任せタイプ」に注目しながら、分析してみよう。

このタイプの場合、帰宅時刻はどうなっているのだろうか。4つのタイプ別に帰宅時刻をみると、「時間がなく、妻任せタイプ」は他のタイプと比較して帰宅時刻が遅く、「23時台以降」が19.0%、「20時台～22時台」は56.4%で、合わせると75.4%が20時台以降に帰宅している（図1-2-11）。

■図1-2-10 家事・育児の分担4タイプ



■図1-2-11 家事・育児の分担4タイプ（父親の帰宅時刻別）

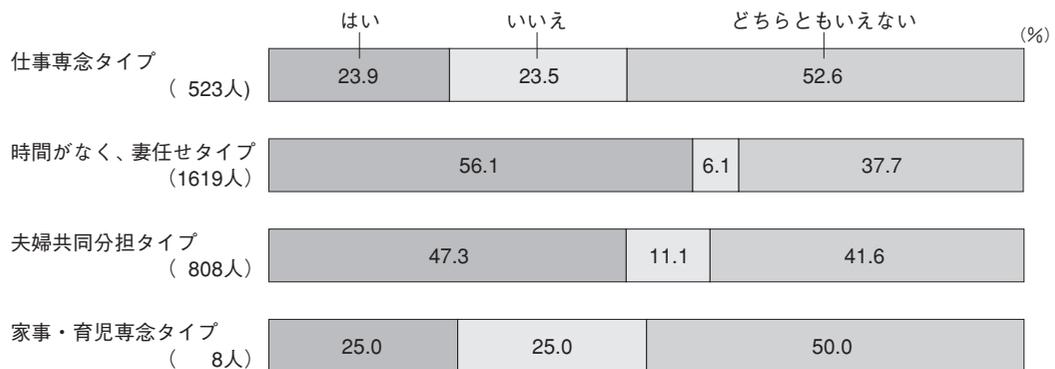


●「時間がなく、妻任せタイプ」は家事よりも育児を希望

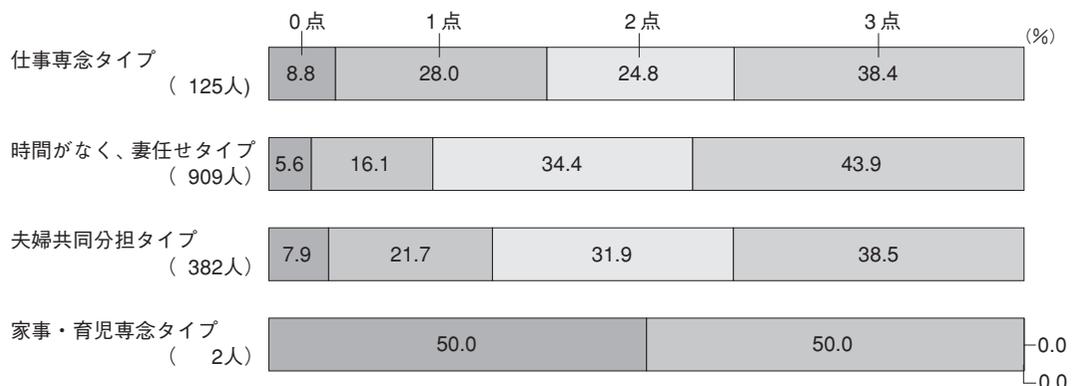
家事・育児に今まで以上にかかわりたいか、という質問には、他のタイプよりも多い56.1%が「はい」と回答している（図1-2-12）。帰宅時刻が遅く家事・育児にかかわれないものの、もっとかかわりたいという意思があることがわかる。では、家事と育児のどちらにかかわりたいのだろうか。育児希

望得点*は3点が43.9%で、他のタイプよりも育児をしたいという希望がやや高いことがわかる（図1-2-13）。逆に家事希望得点は0点が65.6%と、他のタイプよりも多くなっている（図1-2-14）。このタイプの父親は帰宅が遅く、半数以上が今まで以上に家事・育児にかかわりたいという意欲は持っているものの、どちらかといえば育児へのかかわりを望んでいることがわかる。疲れて帰宅して、さらに家事をするよりは、子どもと触れ合っ

■図1-2-12 家事・育児の分担4タイプ（父親の家事・育児への意欲）



■図1-2-13 家事・育児の分担4タイプ（育児希望得点別）



*図1-2-13～14では「家事・育児に今まで以上にかかわりたいか」という質問に「はい」と答えた人に、「もっとかかわりたいと思っている家事・育児」を3つまで選択させている。「はい」と答えたものの、具体的な項目を選択していない人は得点を0点、1つ選択した場合は1点、2つは2点、3つは3点とした。

て癒されたいというのが現状なのであろう。

●「夫婦共同分担タイプ」は約半数が「19時台まで」に帰宅。家族へのかかわりが強い

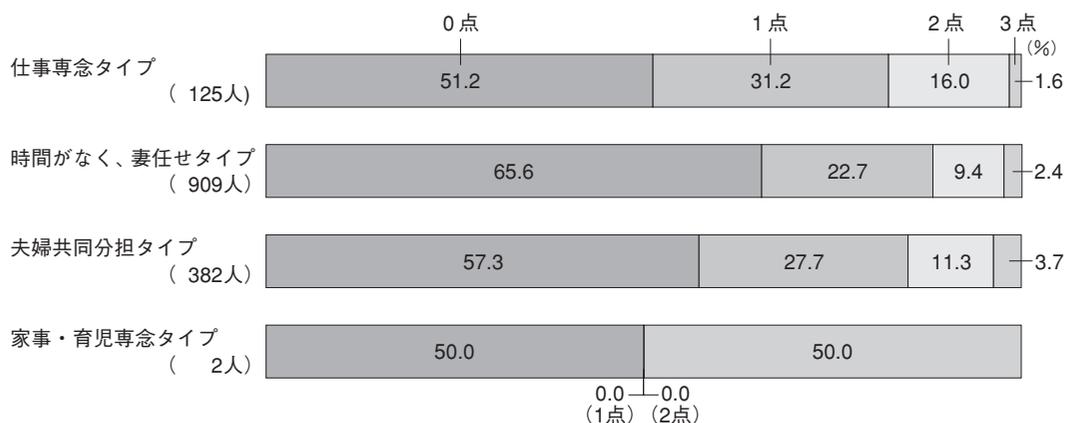
4タイプのうち、次に多かった「夫婦共同分担タイプ」(27.3%)はどのような人なのだろうか。

妻の就業状況を見ると、当然ではあるが、常勤者が30.7%を占め、他のタイプより多く

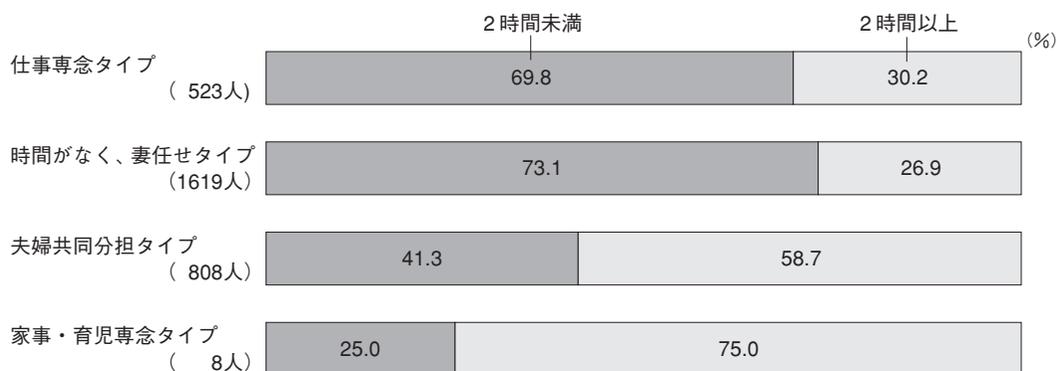
なっていた(「時間がなく、妻任せタイプ」12.4%、「仕事専念タイプ」11.7%)。

また、約半数が「19時台まで」に帰宅している。子どもと過ごす時間も確保されており、約6割が平日でも「2時間以上」子どもとかがわっている(図1-2-15)。そのためか、自分自身でも、「子どもの相手をよくしている」という質問に対し、「とてもそう思う」と自己評価している人の割合が「仕事専念タイプ」や「時間がなく、妻任せタイプ」より

■図1-2-14 家事・育児の分担4タイプ(家事希望得点別)



■図1-2-15 家事・育児の分担4タイプ(子どもと過ごす時間別)



多くなっていた（図1-2-16）。

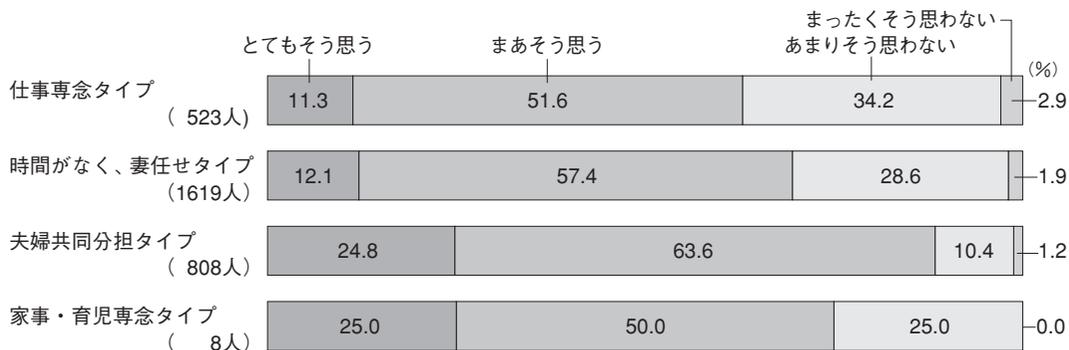
妻との関係も「妻と自分は、互いに心の支えになっている」という質問に「とてもあてはまる」と答えた人の割合が「仕事専念タイプ」や「時間がなく、妻任せタイプ」よりも多く、約3割を占めている（図1-2-17）。子どもの将来について妻と話し合っているか、という質問に対しても、「よく話し合う」と答えた人が32.8%で他のタイプよりもかなり多くなっていた（図1-2-18）。妻とのパートナーシップと子どもへのかかわりを大切にする家族思いの父親像が浮かび上がってくる。

なお、今後の家事・育児へのかかわりについては、すでに十分かかわっているためか、今以上かかわりたいと希望する人の割合は「時間がなく、妻任せタイプ」よりも少なくなっていた（図1-2-12）。

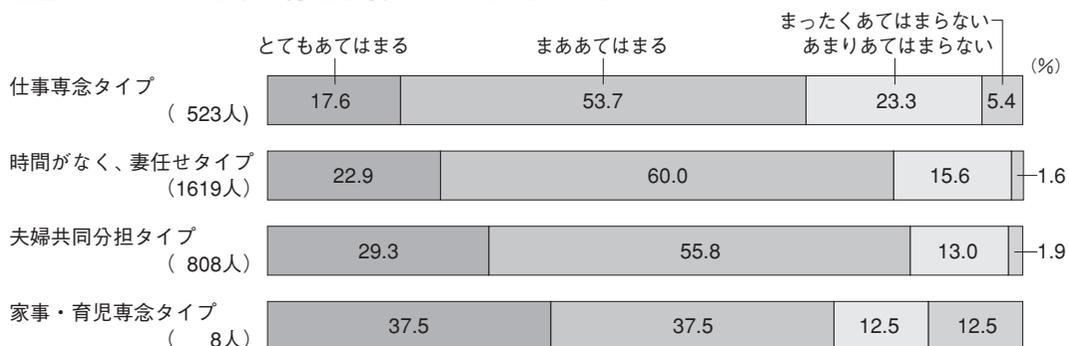
●「仕事専念タイプ」は、家事・育児に今以上かかわりたい人が少ない

全体の17.7%を占めるこのタイプは、仕事一筋の伝統的な父親タイプと言える。帰宅時刻をみると、全体に遅いが、「時間がなく、妻任せタイプ」よりは「19時台まで」に帰宅する人の割合が多い（図1-2-11）。しかし、家事・育児への参加意欲は他のタイプと比較して、明らかに低くなっている（図1-2-12）。このタイプは「男は外で働き、女は家を守るべき」という意識が他のタイプと比較して強い傾向があった（図1-2-19）。また、年代別にみると40代にやや多く（20.7%）、20代では少ない（14.1%）傾向にあった（図1-2-20）。

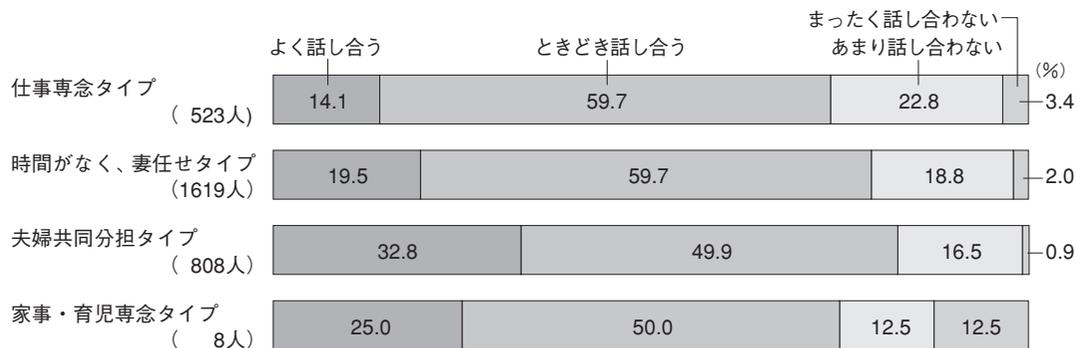
■図1-2-16 家事・育児の分担4タイプ（自分は子どもの相手をよくしている）



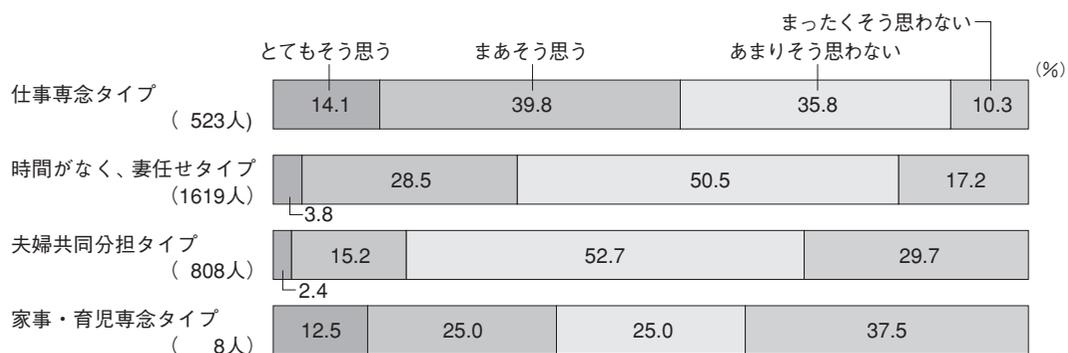
■図1-2-17 家事・育児の分担4タイプ（妻と自分は、互いに心の支えになっている）



■図 1-2-18 家事・育児の分担4タイプ（子どもの将来について配偶者とのくらし話すか）



■図 1-2-19 家事・育児の分担4タイプ（男は外で働き、女は家を守るべき）



■図 1-2-20 父親の年代別（家事・育児の分担4タイプ）

